

# Mado窓



## 放射線科学（画像診断学）教授就任と 放射線画像診断科の紹介

北里大学医学部放射線科学（画像診断学）・教授 井上 優介

平成22年9月1日に医学部放射線科学(画像診断学)教授を拝命し、北里大学病院放射線画像診断科の診療を担当しています。当科は、放射線医学の発展を踏まえ、診療体制のさらなる充実をはかるために放射線治療科とともに新設されました。新しい診療科を担当させていただけるのは大変光栄であり、重責を果たせるよう微力を尽くす所存です。

放射線画像診断科では、CT、MRI、PET、SPECT、血管造影、その他のX線造影検査を用いた画像診断を行い、画像技術の治療応用であるインターベンショナル・ラディオロジー（IVR）も重要な任とします。工学、情報科学、薬学といった関連諸分野の進歩に支えられて臨床画像診断学は急速な発展を続けています。立ち止まることを許されないのは大変ではありますが、新しい刺激に満ちたやりがいのある領域です。

私自身は、平成元年に東京大学医学部を卒業後、画像診断学の中で特に核医学画像法およびMRIを用いた機能診断に興味をもって仕事をしてきました。臨床医として、自分が直面した臨床的課題を解決するために研究開発を行い、その成果を目の前の患者さんのために生かすことに最もやりがいを感じ、それが世界への貢献にもつながると考えてきました。これからも、高品質の診療サービスの提供や親身になった教育活動とともに、研究面でも北里発の技術

で臨床医療の進歩に寄与したいと思います。

画像診断機器の進歩や画像診断の臨床における役割の増大で、発生する画像情報は急速に増加しています。しかし、臨床的に重要な情報を抽出して診断・治療に活用するのでなければ、膨大な画像情報は無用の長物です。画像診断医は画像情報の活用のために大きな役割を果たすことを求められますが、処理すべき情報量が増えて画像診断医に過大な負担がかかり、画像診断医が意欲を失うという、医療崩壊の画像診断版が多くの病院で懸念されています。北里大学放射線画像診断科には、幸い今年は5人の若い先生が加わってくれました。大学病院の使命として、優秀な画像診断医を育て、北里大学関連病院や地域の医療に貢献していきたいと考えています。画像診断医には、その業務の性質上、臨床各科やコメディカルとの連携が強く求められます。画像診断医が臨床に貢献するには、診断能力やIVRの技術が高いことはもちろんですが、高いコミュニケーション能力をもち、相手の立場で考えるサービス精神も大切であり、高い臨床能力をもったよきチームプレーヤーを輩出したいと考えています。近隣の先生方には、検査紹介の方でもよりお役に立てるよう、人的、物的体制を充実させたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

(いのうえ ゆうすけ：放射線科学(画像診断学) 教授)

# 北里大学病院における災害対策



救命救急センター部  
(災害医療対策委員会委員長) 片岡 祐一

はじめに、このたびの東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また被災地の方々に心よりお見舞い申し上げます。

今回の大震災では当院でもいくつかの災害支援活動が行われました。震災直後の急性期（3月12日、13日）には、当院のDMAT（disaster medical assistance team）隊員により、羽田空港において被災地からの広域搬送の支援活動が行われ、14日から16日の間、DMAT隊員5名がドクターカーで宮城県と岩手県に入り、患者搬送やトリアージなどの急性期医療救護活動を展開しました。また北里大学病院の医療支援として、3月18日から27日までの期間、岩手県の大船渡市に医療チーム（医師、看護師、薬剤師、事務）を交代で4チーム派遣し、複数の避難所を回って救護所を開設し、亜急性期の医療支援活動を行いました。一方3月23日には、福島県の病院から自衛隊ヘリにより神経難病患者5名が北里大学東病院へ転院となりました。

そして今回の震災で同時に大きな問題となっている福島第一原子力発電所の放射能漏れ事故に対しては、当院は2次被ばく医療施設として被ばく患者受け入れ施設となっているため、傷病を負った被ばく患者の来院にいつでも対応できる体制づくりをしています。この原発事故はいまだ予断を許さない状況にあり、今後も被ばく傷病患者が搬送されてくる可能性は十分に考えられます。

今回の震災および原発事故でも明らかとなりましたが、災害に「想定外」という発想はしてはならず、危機管理として少しでも予想され得る災害に対しての備えをふだんから行っていかなければなりません。当院では、平成20年4月より防災対策委員会の下部組織として災害医療対策委員会を設立し、主に災害対応マニュアル作成と災害訓練を行ってきました。災害対応マニ

アルは、地震だけではなく近隣の大規模事故や地震以外の自然災害などにも対応できるような内容とし、平成22年5月に最初の形として完成しましたが、まだまだ十分なものではなく、今回の震災を踏まえてさらに内容を吟味していく必要があります。

また災害訓練は、毎年3月の第2土曜日に病院職員を100名以上招集し、主に大地震発生後の初期対応として、外来に多数押し寄せる被災患者に対するトリアージ、医療救護、搬送を中心に実施してきました。過去2回行い、今年3月12日に3回目の災害訓練を予定していましたが、前日に東日本大震災が起きたため中止となりました。また毎年秋には、地震および火災発生時の病棟を中心とした総合防災訓練を、相模原市消防局にも参加していただき実施しています。一方2次被ばく医療施設として、救命救急センターにある除染室を利用した被ばく傷病患者対応の訓練も定期的に行っております。

今回の震災では当院は大きな被害は免れましたが、東海・東南海地震や南関東地震は今後いつ起きてもおかしくないとされています。その際は、神奈川県災害拠点病院の一つである当院は中心的な災害対応の役割を担わなければならない、災害に対する備えは手を緩めることができません。

今後は災害対策として、相模原市を中心とした地域の医療機関どうしの連携、そして医療、消防、行政機関の間の連携も迅速に有効にできるような体制づくりが必要ではないかと考えています。

(かたおか ゆういち：救命救急医学 講師)

## 災害時における感染対策

感染管理室室長補佐 高山 陽子

地震、津波、火山噴火、台風などの大規模な自然災害は、我が国を始めとして世界の多くの場所で発生し、甚大な被害が報告されています。大規模災害が発生すると、直後からライフラインの安定した供給が困難となり、衛生環境の著しい悪化に伴う感染症の流行が問題となります。

平成23年3月11日、東日本大震災が発生し、未曾有の被害をもたらしました。特に高齢者や乳幼児・小児では、集団での避難生活が長期化することにより、疲労や栄養不良などから感染症の発生が高まることが予想されます。ここでは、中長期的な避難生活で注意すべき感染症とその対策について取り上げます。

個別の対策が必要な感染症として、感染性胃腸炎やインフルエンザが挙げられます。

感染性胃腸炎は、ノロウイルスや芽胞菌を考慮した対策をとります。介護者はマスクを着用し、有症状者は嘔吐・下痢が収まるまで可能であれば別室に移動します。吐物や下痢便はマスク・手袋を着用して処理し、トイレや汚染した周囲を次亜塩素酸ナトリウムで消毒します。処理後は必ず手洗いを行います。

インフルエンザでは、介護者・有症状者ともにマスクを着用します。可能であれば部屋の換気を行い、有症状者を解熱後48時間まで別室に移動します。国内での発生数は減少傾向を示していますが、引き続き、主にインフルエンザBへの注意が必要です。曝露時の抗インフルエンザウイルス薬予防投与は原則として推奨されません。ハイリスク者または感染拡大を押さえることが出来ない場合に考慮します。

急性上気道炎、肺炎、膀胱炎なども頻度が高いことが予想されます。急性上気道炎や肺炎では咳エチ

ケット、口腔ケア、換気などの対策を行います。高齢者の場合、嘔吐に起因する誤嚥性肺炎の発症にも注意が必要です。

麻疹は、避難施設のような近接した空間では大流行に繋がる恐れがあります。空気感染対策として、陰圧個室の確保や介護者のN95マスク着用が必要ですが、十分に行えない場合は、できる限り個室に移動し、サージカルマスクの着用を行います。麻疹は4月後半以降、東京を中心に全国で流行の兆しがあります。外部からの持ち込みは避けなければなりません。

非常時には通常推奨される感染対策が行えるとは限りません。また、集団への感染対策の徹底が困難となることも予想されます。手洗いや手指消毒、咳エチケット、ワクチン接種、体調管理、食品管理などについて、できる限りシンプルで多数が遵守できる内容を提示し、人目につきやすい場所やトイレに掲示するなどの手段を用いて、周知を図ることが重要です。そして、医療チーム間の引き継ぎを十分に行い、一貫性のある対策を継続することが重要となります。

(たかやま ようこ：総合診療医学 講師)



## “検査サービス”のご案内

当院における病診連携に日頃よりご協力をいただきましてありがとうございます。さて、前号に続き“検査サービス”についてご紹介させていただきます。

当サービスでは、地域の先生方より画像診断・生理検査の検査実施を目的にご紹介頂くサービスです。お申込は、地域の先生方より患者支援センター部病診連携担当者宛にお電話いただくとその場で予約をお取りする事が出来ます。その後は、専用の申込書「検査サービス利用申込書兼診療情報提供書」を担当専用のFaxにお送りいただきます。

患者様は、予約日に「検査サービスの患者さまへ」と「検査サービス利用申込書兼診療情報提供書」を初診受付に提出後、各検査室で検査を開始します。

なお、検査サービスに関する説明書や検査時留意事項説明書（別途お問い合わせ下さい）についてはお申し込み時にご説明させていただきます。

諸先生方の御利用をお待ちしております。

### 検査項目

☆放射線関係（MRIは北里大学東病院で検査サービスをお受けします）

CT・PET-CT・核医学検査

☆生理検査関係

一般脳波・超音波・血管超音波・神経筋機能検査・一般呼吸機能検査・簡易型睡眠時無呼吸モニター・ホルター心電図・動脈硬化検査・精密聴力検査・精密総合平行機能検査

### 当日持参品

☆健康保険証・診察券（過去に当院の受診歴がある方）

☆検査サービス利用申込書兼診療情報提供書

☆検査サービスの患者さまへ

### 検査サービスの申し込み・問い合わせ先

北里大学病院 患者支援センター部 病診連携担当

☆検査サービス依頼 電話 042-778-9988

☆検査サービス利用申込書送付先 Fax 042-778-9599

### その他

☆「検査サービス利用申込書兼診療情報提供書」と「検査サービスの患者さまへ」は、本紙の綴じ込み用紙をコピーしてご利用ください。

〒252-0375 神奈川県相模原市南区北里1-15-1  
北里大学病院 患者支援センター部  
TEL 042-778-9988 FAX 042-778-9599  
<http://www.kitasato-u.ac.jp/khp/>  
E-mail / [shoukaiw@kitasato-u.ac.jp](mailto:shoukaiw@kitasato-u.ac.jp)

## 検査サービスの患者さまへ

検査日 【平成 年 月 日 時 分】  
から検査を開始いたします。

### 診察当日の持ち物

- ①保険証
- ②診察券（北里大学病院に以前おかかりになられた方）
- ③検査サービス利用申込書（診療情報提供書・紹介状）

### 来院場所

正面玄関をお入りいただき、すぐ左手の初診受付で、  
**「検査サービスで来ました」**と声をかけてください。  
検査当日は、**この用紙とともに上記①～③**を  
初診受付に提出するだけです。

### 初診の方

ご本人の郵便番号・現住所・電話番号  
配偶者又は保護（義務）者の氏名・住所・電話番号・続柄・  
郵便番号  
自宅以外の連絡先（勤務先等）氏名・住所・電話番号・  
郵便番号  
をお伺いします。

**検査予約時間 30 分前までにご来院ください。**



# 検査サービス利用申込書

## 北里大学病院 《診療情報提供書》

平成 年 月 日

患者氏名	フリガナ	男・女	生年月日	明大昭平	年	月	日
	(年齢 歳)						
北里大学病院 登録カード番号	例 001 - 23 - 45 A - -						

当院の登録カードをお持ちの患者様は、次の現住所、配偶者、緊急連絡先、本籍欄のご記入は不要です。  
北里大学東病院のカードは、使用できませんのでお間違えのないようお願いいたします。

現住所	〒□□□□ - □□□□		電話	( ) ( ) ( )		
本人・配偶者勤務先 保護者・その他名称			勤務先所在地	電話 ( ) ( ) ( )		
配偶者 保護(義務)者	氏名			続柄		
	住所			電話	( ) ( ) ( )	
緊急連絡先(現住所と勤務先を除く親戚・知人等)			氏名	電話 ( ) ( ) ( )		
本籍						

検査サービスのご利用に伴い以下の必要項目にご記入をお願いいたします。

検査項目に ○印	※ PET-CT (腫瘍検査)						
	※ CT (頭・腹部・肺・血管・全身・脊椎・その他) 造影剤 (要・不要)						
	※ 核医学 (骨・ガリウム・甲状腺・甲状腺腫瘍・心筋血流・肺血流・脳血流・腫瘍タリウム・腎) シンチ						
	※ 一般脳波 ※ 超音波 (部位) ※ 血管超音波						
	※ 神経・筋機能検査 (運動神経・知覚神経伝導速度、反復刺激、瞬目反射、H波・F波潜時、表面筋電図、感覚電流知覚閾値)						
	※ 一般呼吸機能検査 (VC、FVC、FRC、呼吸抵抗)						
	※ 簡易型睡眠時呼吸モニタ ※ ホルター心電図 ※ 動脈硬化検査 (ABPI/PWV)						
	※ 精密聴力検査 (標準純音聴力、耳小骨筋反射、Tympanometry、語音聴力、SISI検査、自記オージオメトリ)						
※ 精密総合平衡機能検査 (書字、注視・非注視時・頭位眼振、運動指標追跡、振り様回転、視運動性眼振、重心動揺、EquiTest)							
検査部位							
診断名							
現病歴 治療経過 その他 留意事項							
検査決定日時		平成 年 月 日 ( ) (午前・午後) 時 分より					

検査日時が決定していない場合は、次の検査希望日時をご記入下さい。

検査希望日	※ 早めに ※ 平成 年 月 日 ( ) (午前・午後) ( ) 時頃希望					
	※ 都合の悪い日 平成 年 月 日 ( ) 曜日					
紹介元	所在地					
	医療機関名					
	医師名 TEL ( ) ( ) ( )					